

所属・資格 地理学科・教授

申請者氏名 矢ヶ崎 典隆

研究課題		カリフォルニアのセントラルバレーにおける灌漑化の進展と農地の細分化
報告の概要	研究目的 および 研究概要	アメリカ合衆国で有数の農業地域と知られるカリフォルニアのセントラルバレーでは、19世紀末に粗放的土地利用から集約的土地利用への転換が始まった。その基盤となったのは灌漑事業であり、その結果としての農地の細分化であった。本研究は、カリフォルニア州灌漑地区法の成立とそれに基づく灌漑地区の設立、灌漑事業の進行、大規模所有地の分割過程、農業的土地利用の変化について、セントラルバレーの南半分を構成するサンホアキンバレーを事例として検討することを目的とする。本研究は、カリフォルニアの地誌学的理解に寄与するだけでなく、南北アメリカにおける農業的土地利用と農業社会の持続的発展を考察するための基礎的な知見を提供できる。
	研究の結果	19世紀後半に連邦政府と州政府による土地の払い下げを利用して形成された大牧場・農場は、灌漑化に伴って分割・販売された。各地に灌漑入植地が造成されたが、その基盤となったのは、カリフォルニア州灌漑地区法に基づいて設立された灌漑地区であり、サンホアキンバレーの灌漑地区について詳細を検討した。大地主ジョン・ミッチェルの土地は、彼の死後、世紀末投資会社によって分割・販売されたが、ターラック灌漑地区の灌漑水路が完成して水の供給が可能になると、小規模入植者が増加した。こうした農地の細分化の様相を、スタニスロース郡とマセド郡の公図から明らかにすることができた。ターラック灌漑地区の設立の経営、運営、灌漑水路、農地の分割について報告書に依拠して詳細を明らかにすることができた。また、小規模農場で行われた酪農、メロン栽培、ブドウ・果樹栽培について、また農産加工について、センサスやシティディレクトリーを利用して復元することができた。
	研究の考察・反省	地理学では、地域を論じる際に、ローカルスケールからグローバルスケールまで、さまざまなスケールを設定する。研究対象地域であるサンホアキンバレーの地域変化を、グローバルスケールで考察する際に、私が以前に提示した南北アメリカの三つの経済文化地域（北西ヨーロッパ系小農経済文化地域、イベリア系牧畜経済文化地域、プランテーション経済文化地域）の枠組みに照らして考察することの意義を確認した。ただ、19世紀後半の土地譲渡記録を閲覧するために2020年3月に現地での資料収集を企画したが、新型コロナウイルスの蔓延に伴って外出禁止令が出され、関係機関が閉鎖されたため、当初の目的を達することができなかった。もっと早い時期に資料収集を実施すべきであったということが反省点である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究発表・研究成果物は無し</p> <p>(1)研究期間中に成果を出すことができなかった理由 春休み中に現地での資料収集を企画したため、成果をまとめて年度内に公表することはできなかった。また、本年度の研究課題は継続した一連の研究の一部である。そうした研究成果は、次項で記載の研究書として刊行を予定している。</p> <p>(2)次年度以降の成果発表の予定 本年度の研究成果および過去の研究成果をまとめて、『移民とフロンティアーカリフォルニアの開拓と日本人一』として刊行することを企画中である。</p>	